

1

問題のページへ

(1) $f(x) = 1 - \cos x - x \sin x$ に対して,

$$f'(x) = \sin x - \sin x - x \cos x = -x \cos x$$

$0 < x < \pi$ において, $f(x)$ の増減は右表のようになり, $f(x) = 0$ は唯一の解をもつ。

x	0	...	$\frac{\pi}{2}$...	π
$f'(x)$	0	-	0	+	
$f(x)$	0	↘		↗	2

(2) $f(x) = 0$ の解を $x = \alpha$ とすると, $1 - \cos \alpha = \alpha \sin \alpha$ (*)

$$J = \int_0^\pi |f(x)| dx = \int_0^\alpha -f(x) dx + \int_\alpha^\pi f(x) dx$$

ここで, $F(x) = \int f(x) dx$ とおくと,

$$\begin{aligned} F(x) &= \int (1 - \cos x - x \sin x) dx = x - \sin x + x \cos x - \int \cos x dx \\ &= x - 2 \sin x + x \cos x + C \end{aligned}$$

よって, (*) を用いると,

$$\begin{aligned} J &= -[F(x)]_0^\alpha + [F(x)]_\alpha^\pi = F(0) + F(\pi) - 2F(\alpha) \\ &= -2\alpha + 4 \sin \alpha - 2\alpha \cos \alpha = -2 \cdot \frac{1 - \cos \alpha}{\sin \alpha} (1 + \cos \alpha) + 4 \sin \alpha \\ &= -2 \cdot \frac{\sin^2 \alpha}{\sin \alpha} + 4 \sin \alpha = 2 \sin \alpha \end{aligned}$$

(3) (1) より, $\frac{\pi}{2} < \alpha < \pi$ であるが,

$$f\left(\frac{3}{4}\pi\right) = 1 + \frac{\sqrt{2}}{2} - \frac{3}{4}\pi \cdot \frac{\sqrt{2}}{2} = \frac{\sqrt{2}}{2} \left(\sqrt{2} + 1 - \frac{3}{4}\pi \right) > \frac{\sqrt{2}}{2} \left(1.4 + 1 - \frac{3}{4} \times 3.2 \right) = 0$$

これより, $\frac{\pi}{2} < \alpha < \frac{3}{4}\pi$ となり,

$$J = 2 \sin \alpha > 2 \sin \frac{3}{4}\pi = \sqrt{2}$$

[解 説]

微積分の標準的な問題です。誘導も細かく付けられています。

3

問題のページへ

(1) 8枚のカードから2枚のカードを引く ${}_8C_2$ 通りの場合が同様に確からしいとする。

さて、引いたカードの数字の小さい方が3となる確率は $\frac{{}_5C_1}{{}_8C_2} = \frac{5}{28}$ ，小さい方が6

となる確率は $\frac{{}_2C_1}{{}_8C_2} = \frac{2}{28}$ であるので、

$$p(8) = \frac{5}{28} + \frac{2}{28} = \frac{1}{4}$$

(2) $3k+2$ 枚のカードから2枚のカードを引く ${}_{3k+2}C_2$ 通りの場合が同様に確からしいとする。

さて、引いたカードの数字の小さい方が $3l$ ($l=1, 2, \dots, k$) となる確率は、

$$\frac{{}_{3k+2-3l}C_1}{{}_{3k+2}C_2} = \frac{2(3k+2-3l)}{(3k+2)(3k+1)}$$

$l=1, 2, \dots, k$ の和をとると、

$$p(3k+2) = \sum_{l=1}^k \frac{2(3k+2-3l)}{(3k+2)(3k+1)} = \frac{2}{(3k+2)(3k+1)} \cdot \frac{(3k-1)+2}{2} \cdot k = \frac{k}{3k+2}$$

[解説]

不思議なぐらい基本的な問題です。なお、(2)の和は、シグマの公式でなく、等差数列の和として計算しています。

4

問題のページへ

半直線 AP 上の点 Q に対し、 $\overrightarrow{AQ} = t\overrightarrow{AP}$ とおく。

すると、 $\frac{AQ}{AP} \leq 1$ より、 $P(x, y) \neq A(a, 0)$ のもとで、

$$\text{このとき、} \overrightarrow{QP} = \overrightarrow{AP} - \overrightarrow{AQ} = (1-t)\overrightarrow{AP}$$

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OQ} &= \overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{AP} = (a+t(x-a), ty) \\ &= (a(1-t)+tx, ty) \end{aligned}$$

さて、 $\frac{QP}{OQ} \leq \frac{AP}{OA}$ より、 $\overrightarrow{OQ} = \overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{AP} \neq \vec{0}$ のもとで、

$$OA \cdot QP \leq OQ \cdot AP \dots\dots\dots$$

から、 $\overrightarrow{AO} \neq t\overrightarrow{AP}$ となり、 $\overrightarrow{AO} \neq \vec{0}$ から $0 < t \leq 1$ で、 $\overrightarrow{AP} \neq \frac{1}{t}\overrightarrow{AO}$

すると、 $\frac{1}{t} \leq 1$ から、 $P(x, y)$ は、 x 軸上の $x \leq \frac{a}{2}$ の部分には存在しない。

また、 $\frac{1}{t} \leq 1$ から、 $a|1-t| \leq |\overrightarrow{AP}| \leq |\overrightarrow{OQ}| \leq |\overrightarrow{AP}|$ 、 $a^2(1-t)^2 \leq |\overrightarrow{OQ}|^2$ となり、

$$a^2(1-t)^2 \leq \{a(1-t)+tx\}^2 + t^2y^2, (x^2 + y^2 - 2ax)t^2 + 2ax \leq 0 \dots\dots\dots$$

は、 $t=0$ では成立しているのに、 $0 < t \leq 1$ でつねに成立する条件を求める。

そこで、 $0 < t \leq 1$ において、 $\frac{1}{t} \leq 1$ は、

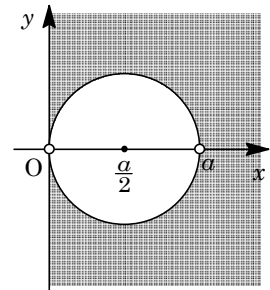
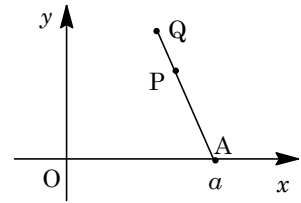
$$(x^2 + y^2 - 2ax)t + 2ax \leq 0$$

$f(t) = (x^2 + y^2 - 2ax)t + 2ax$ とおくと、求める条件は、

$$f(0) = 2ax \leq 0, f(1) = 2x^2 + 2y^2 - 2ax \leq 0$$

まとめると、 $x \leq 0$ かつ $(x - \frac{a}{2})^2 + y^2 \leq \frac{a^2}{4}$

よって、条件を満たす点 $P(x, y)$ の存在領域 D は、右図の網点部となる。ただし、白丸以外の境界は領域に含む。



[解 説]

問題文に与えられた条件が比の形で書かれているため、取り組みにくい感じがします。なお、点 Q はこの条件を満たす任意の点として解答をしています。